

学長就任にあたり

学長 後藤 直正

私の教員生活は本学の助手（微生物学教室）から始まり、約40年に渡ります。そして、この度、学長を務めることになりました。“A lot of water has flowed under the bridge since then.”です。一方で、単に流れる水を見つめてきただけではありません。今になって思えば、明らかな失敗もありましたし、言うべきではない発言もしました。これでいいのかと自問してきた事柄もあります。しかし、それらを収納しているだけでは、単に思い出にしか過ぎません。今まで積み重ねてきた経験を活かすべきとき、活かさねばならぬときが来たと考えております。

薬学6年制も10年を経過した現在、本学の6年制の意義を再考すべき時であります。「ファーマシ

ト・サイエンティストの育成」は、本学の教育目標であるということが全学的に浸透してきたことは言うまでもありません。しかし、まだ「ファーマシスト・サイエンティスト」を「科学を身につけた薬剤師」、つまり「ファーマシスト」プラス「サイエンティスト」と捉えられていることが少なくないと感じております。「ファーマシスト・サイエンティスト」とは、Science（科学）、Art（技術）、Humanity（人間性）の3つの要素のバランスがとれた人材（薬剤師）のことであります。3つの要素のバランスがとれた人材の育成に本学が向っているのか？つまり、本学のビジョン達成への方策と6年制の意義を再考することだと思えます。

助手から始まった約40年、いろいろなことを経験

CONTENTS

■ 特集

創立130周年記念館が竣工しました 6

■ ご挨拶

学長就任にあたり 学長 後藤 直正 1

学長退任のご挨拶 前学長 乾 賢一 2

定年退職/新任/昇任のご挨拶 3

■ コラム

卒業生からのメッセージ 15

学生相談室だより 26

■ イベント

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

「優良和薬の確保・供給のための研究」

キックオフシンポジウム報告書 11

「新規分子標的治療薬創薬に向けた

大学発ベンチャー基盤の確立」

キックオフシンポジウム報告書 12

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン主催

「A*STAR-KPU Joint Symposium」報告書 13

自治会執行部主催 クリスマス企画 21

■ 報告

受賞・掲載 5

レーゲンスブルク大学での研究留学生活 16

米国ウィスコンシン州立大学

Carbone Cancer Centerでの研究留学生活 17

大学院トピックス 18

2016年度入学試験結果と総括 22

2016年度大学院冬季募集・二次募集の入学選考結果 22

京都薬科大学奨学金寄付金芳名録 28

■ お知らせ

Library News 15

他大学の科目・講座を受けてみませんか!!! 19

奨学金について 20

2016年度オープンキャンパス開催のお知らせ 23

クラブだより 23

2016年度前期学費の納入について 24

2016年度「卒後教育講座」・「研究支援セミナー」

開催のお知らせ 25

お知らせ 27

京薬会だより 28

してきました。なかでも衝撃だった出来事は、6年制1期生であります。当時の教務部長として情けないことではありますが、「朝令暮改」は日常茶飯事であるぐらい、未知の6年制教育の遂行は何から何まで手探りでありました。学生のアンケートに見た「私たちはマウスか！」はいまだに忘れることができません。皮肉なもので、掘るべきところのない1期生は自主的に猛烈な勉学活動を展開しました。悪条件のなかでも必要なら切り開いてゆく学生群は頼もしくありました。条件が揃わないと、揃えないと、すべてが成り立たぬのでしょうか。オランダ語もほとんど分からぬ江戸期には、ひとつの単語を手がかりに日蘭辞書の編纂を行った先人がいます。未知の蒸気機関車の図解はほとんど間違いがなかったそうです。航海の経験もなく、わずかのチャンスに浮上したときに見える星座を頼りに、深海をたどり、喜望峰を越えて、約束の時間に遅れることなく地中海に到達した先人もいます。これらのことはロマンでもあり、未知のことに挑むScienceの原点でもあります。

時代の潮流に乗ることが必ずしも正しいこととは限りません。しかし、古きことに回帰することが正しいと唱えているのでもありません。本学職員に

とっては、大学とはなにか、どうあるべきか、つまり大学の使命はなにかを考えること、学生諸君にとっては、大学で何を身につけるべきか、そしてどう生きてゆくのか、6年後にはどのようなになっているのかを考えることが重要なことです。

6年制薬学教育の10年間の歩みをもう一度振り返り、次の10年への確固たる座標軸を構築する指揮をとることが私の任務と考えております。

本学は、関西の雄で甘んじるのではなく、薬学のリーダーたるべき大学であるべきで、それが、130有余年の本学の歴史を繋いで来られた諸先輩方のご努力に応えることです。それを実現するには、3つの要素のバランスのとれた「ファーマシスト・サイエンティスト」の育成に努めることであります。教育職員、事務職員の区別なく、全学的な支援がなくてはこれを実現することはできません。なにとぞご支援のほどお願いします。

学生諸君においては、本学での地道な、また愚直なまでの研鑽によって、雲形定規のような世界（三島由紀夫）で羽ばたける「ファーマシスト・サイエンティスト」になってほしいと期待しております。

学長退任のご挨拶



前学長 乾 賢一

2010年4月に本学学長を拝命して以来早6年が過ぎ、本年3月末をもってその任を終えることができました。この間に皆様からいただいたご支援、ご協力に心から感謝申し上げます。

大学病院薬剤部に30年間在籍した者が、伝統ある薬科大学の学長に就任するという人事は、極めて異例でありました。しかし、社会のニーズとして薬学6年制の議論が2002年から本格化する中で、本学の6年制一本化という大英断が、医療現場で薬学6年制を強く唱えていた私に白羽の矢が立つことに繋がったのではないかと、今、思い返しています。着任当日、全職員を前にしての所信表明の講演において、私は「京都薬科大学の目指すところ、それはナンバーワンの薬学教育と研究、そしてファーマシスト・サイエンティストの育成」であることを訴えました。これを掲げた理由は、6年制薬学に対する私の強い思い入れと、伝統のある本学がこの歴史的改革を推進しなければならないという使命感でありました。

本学の6年制薬学の取り組みを振り返ってみますと、全職員の弛まぬ努力のお陰で、本学は着実に発

展してきました。研究能力を有する薬剤師すなわちファーマシスト・サイエンティストの育成を掲げて、Science（科学）、Art（技術）、Humanity（人間性）のバランスのとれた教育を実践し、また初年次教育の充実、英語による卒論発表会など、特色ある取り組みを進めてきました。また、6年制薬学部に続く大学院博士課程（4年制）は、薬剤師免許を持った薬学博士を育成するために極めて重要と位置づけて、大学院学生には分野の垣根を越えた研究指導を奨励し、リサーチ・アシスタント制度による経済的支援、短期海外留学支援（約6ヶ月）など特徴ある支援を進めてきました。さらに、私は「開かれた学長室」をモットーとしてきましたが、これが功を奏し学生達もしばしば足を運んでくれて、学業、クラブ活動、将来の進路などについて話す機会となり、改革につながる貴重なヒントを得るきっかけになりました。

このように、本学は単科大学の特徴、強みをフルに活かしながら、6年制薬学のモデル校を目指して力強く進んでいます。その上で、今、本学に求められることを敢えて申し上げたいと思います。それは「6年制薬学に対する責任と矜持（プライド）」を持つことであり、これは教員、事務職員、学生にとって大切と考えます。

4月から後藤直正新学長のもとで、本学の新体制がスタートしました。輝ける薬学の未来に向けて、本

学が全国薬系大学の先頭に立って活動を続け発展することを願ってやみません。最後に、6年間にわたってご協力・ご支援をいただいた、武田禮二理事長を

はじめ法人役員、教員、事務職員、教育後援会の皆様、卒業生の皆様に心から感謝申し上げ、退任のご挨拶とさせていただきます。

定年退職のご挨拶



薬学教育系
臨床薬学教育研究センター

教授 高山 明

私は、平成16年に実務家教員として本学に招聘して頂き、このたび定年を迎えました。薬学教育が6年制に移行した激動期に教員として携われたことに感謝します。私の担当は主に事前学習と実務実習ですが、6年制1期生の入学式で360名の新入生を見た時、本当に実習先の確保ができるのかと心配になったことを覚えています。また懸案であった訪問指導体制も、特命教授制度の導入と、本学独自のふるさと実習訪問指導体制が整備され順調に進めることができ

ました。

実務実習で最も大切なことは人としての思いやりを持つことと真面目さだと私は思っています。充実した実習を経験した学生その後の成長からでも判るように、薬学生にとって実務実習は非常に重要です。大学だけで質の高い薬剤師を養成する時代は終わりました。そのためには慣れからくる実習の形骸化を防止し、学生においては在学中の先輩からの無責任な伝言に惑わされず、一人一人が実務実習の目的と薬学教育6年制が目指す意義を理解してもらいたいものです。平成31年度からの新コアカリに従った実務実習が実り多いものになることを期待します。

最後に、これまで支えて頂きました教職員の皆様に感謝すると共に、京都薬科大学の益々の発展を祈念します。

共同利用機器センター

講師 織田 佳代子

一昨年、京都薬科大学は創立130周年を迎えましたが、私が本学に入学した時から数えると47年、何と大学の歴史の約1/3という長きに亘りこちらでお世話になったこととなります。教員生活の前半約20年は、当時の薬品分析学I教室で研究・教育に従事し、後半20年余りは現在の共同利用機器センターに移り、質量分析で皆様の研究を支援してまいりました。これからは皆様にバトンタッチです。

何事においても簡便さとスピードが要求される昨今、質量分析の現場でも、簡単に測定できる装置の利用が主流になってきていますが、問題点も多く、間違った結果を導き出す可能性も捨てきれません。基礎的な知識と技術を身に付けた専門家が少なく

り、誤りに気付く機会もないことを危惧していません。物事に興味や疑問を持ち、基礎を疎かにせず、真摯に真実を追求する姿に次世代の人達が憧れ、育っていく場が本学からは消えないことを切望しています。

今すべき事、今できる事から目をそらさず、ひとつひとつ地道に積み上げたものは次に繋がる種となります。小さな達成感が前に進むエネルギーを生み出し、自分の意外な可能性が目覚めるきっかけにもなります。「一步踏み出せば扉が開き、努力すれば道が拓ける。」皆様方に比べ、私に残された時間は長くありませんが、未知の自分にわくわくする気持ちを私自身も持ち続けたいと思っています。

長い間、多くの方々に大変お世話になり、心より御礼申し上げます。

この先も、様々な試練を乗り越え、凜として立つ京都薬科大学であってほしいと願っております。



薬学教育系
学生実習支援センター

講師 竹島 繁雄

私は、1973年本学を卒業し、同年薬品分析学I教室の助手として採用されました。以後1995年に教育研究センター、2010年に学生実習支援センターに移り、2016年定年退職に至りました。

43年長きにわたり、多くの学生、教職員、大学関係業者の皆様と共に過ごさせてもらいました日々は、私にとって忘れ難いものになりました。

新入生、在学生の皆様、卒業の時まで、学業に励むことはもちろん、実りの多いキャンパスライフを送れるよう願ってなりません。

最後になりましたが、京都薬科大学の益々のご発展と、学生の皆様、教職員の皆様のご健勝をお祈りし、退職の挨拶とさせていただきます。長い間本当にありがとうございました。



事務局長

村澤 悟

私は、1973年大学卒業と同時に本学に入職して、会計課に配属されました。1973年は、本学の入学定員が現在の360名になった年であります。会計課を振り出しに施設課、学生課、再度会計課、教務課、そして事務局次長、事務局長と合わせて43年間の長きに亘り本学にお世話になりました。

中でも楽しく仕事をさせてもらったのは、学生課時代で、学生さんの支援の仕事はもちろんですが、それ以外に学生課時代には、教室（現在の分野）對抗野球大会のピッチャーとして優勝、準優勝をしましたし、駅伝大会では、個人の部で金・銀・銅メダルを頂いたりしてとても楽しく仕事をさせていただきました。学生課時代に知り合いになった学生さん、特に京菓祭実行委員や学生自治会委員の方々とは卒業後も親交があり、未だに同窓会に招待して頂き、

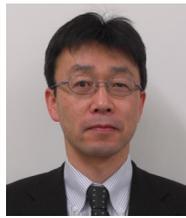
私の財産になっております。

教務課の配属は、1992年で大学設置基準の大綱化により、いわゆる事前規制から事後チェックという大きな流れが変わる改革が行われた年でした。事後チェックとして本学の自己点検・評価を最初に担当できたのは幸運でした。カリキュラム改正等も担当しましたが、教務課で記憶に新しいことは、留年生対応の難しさでした。

事務局次長、事務局長としては、大学の管理運営に携わりました。ソフト面では、中期計画の第1期・2期の策定と推進、学生満足度調査・学生生活調査の企画、ハード面では、躬行館、奏楽館、バイオサイエンス研究センターなどの建築、そして憩いの場所としての中央庭園・南校地外構整備、南風館の新築などに携わりました。

このように事務方として学生の皆さんを支える仕事に携われ、貴重な体験をさせていただきました。学生さんや教職員の皆さんには大変お世話になり、心より感謝申し上げます。4月以降も学校法人の仕事をお手伝いさせていただく予定です。もう暫く、よろしく願いいたします。

新任のご挨拶



分析薬科学系
薬品物理化学分野

教授 齋藤 博幸

この度、平成28年1月1日付で薬品物理化学分野を担当させて頂くこととなりました。私は、昭和61年に京都大学薬学部（薬品物理化学教室）を卒業後、病院薬剤師、製薬企業での製剤基礎・開発研究、厚生労働省研究所での医薬品品質保証・評価研究、ペンシルバニア大学医学部・フィラデルフィア小児病院研究所での脂質代謝制御タンパク質に関する研究などを行ってきました。平成17年からは神戸薬科大

学薬品物理化学研究室教授、平成22年からは徳島大学薬学部製剤分子設計学分野教授として、薬学物理化学分野での教育に取り組むとともに、血中や脳内で脂質を輸送しているリポタンパク質代謝系をターゲットとした生物物理化学的研究を進めてきました。

物理化学は、医薬品と生体との関わりを学ぶ薬学の基礎となる分野であり、薬剤師として臨床の場で薬を扱う上での基礎知識としても重要です。私のこれまでの経験を活かし、本学における物理化学分野での教育・研究の発展に微力ながら尽力させて頂きたいと考えておりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしく願い申し上げます。



放射性同位元素研究センター

准教授 河嶋 秀和

本年1月1日付で放射性同位元素研究センターの准教授に着任致しました。KPU_{NEWS}の紙面をお借りし、ご挨拶申し上げます。

私は平成14年に京都大学大学院で博士（薬学）の

学位を取得後、先端医療センター研究員、京都大学医学部附属病院助教、国立循環器病研究センター研究所室長、北海道医療大学薬学部准教授を務め、この度本職を拝命した次第です。基盤とする分野は放射薬学、分子イメージング学、画像診断学ですが、現在までに神経変性疾患、循環器系疾患、代謝性疾患、悪性腫瘍を始め様々な疾患の病態解明に携わってきました。これら基礎・臨床と異なる立場から医療全般に対する数多くの経験ができたことは、自らの研究を推し進める上で大きな糧となっています。

また、前任地では私立大学における薬学教育についても学びました。本学でもチーム医療において協調性とリーダーシップを兼ね備えた薬剤師や薬学研究者の育成を目指し、学生諸君とともに歩みながら更

なる研鑽を積みたいと考えております。

教員職員の皆様、ならびに関係者の皆様にはご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

昇任のご挨拶



生命薬科学系
公衆衛生学分野

ともひろ

講師 長谷井 友尋

平成28年1月1日付で公衆衛生学分野の講師昇任を拝命しました。私は平成14年に本学薬学部を卒業し、平山晃久教授（現 名誉教授）、渡辺徹志助教授（現 教授）のご指導の下、平成16年に本学大学院博士前期課程を修了いたしました。その後、公衆衛生学分野の助手として採用され、平成21年に本学にて博士（薬学）号を取得いたしました。研究では環境変異原性物質や内因性変異原性物質の微量分析法の

開発を中心とした疾病を予防するための研究に取り組むとともに、教育では「公衆衛生学実習」「公衆衛生学A」「公衆衛生学B」などの疾病予防に関する講義を担当して参りました。

現在、薬学6年制は完成し、薬学部からは5期生を、4年制の大学院薬学科からも初めての修了生を送り出し、薬学教育は大きな転換点を経験しました。しかしながら、社会からの薬剤師に対する期待は今後も変化し続けると予想されます。私は京都薬科大学の学生及び卒業生が社会の期待の変化に対応し、各領域で恒久的な活躍ができる人材となるよう、その育成に貢献すべく、微力ではございますが精進し続ける所存でございます。ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

受賞・掲載

Report

■第4回がんプロ国際シンポジウムにおいて優秀演題賞を受賞

2016年2月27日（土）～28日（日）に大阪で開催された「第4回がんプロ国際シンポジウム(The 4th International Symposium of Training Plan for Oncology Professionals)」において薬品化学分野 博士課程4年次生の戸田侑紀さんが優秀演題賞を受賞しました。

受賞者：薬品化学分野 博士課程4年次生 戸田 侑紀

演題：The Challenge to Cancer-Targeting using Exosomes

演者：Yuki Toda, Kenichi Akaji, Eishi Ashihara



コトバの『豆クイズ』6

（出題者 鈴木 栄樹）

どこの地域にも、いわゆる難読地名と言われるものがあります。京都市内で代表的なものは、京都駅から北に伸びるメインストリートの烏丸通（からすまどおり）や東映映画村がある太秦（うずまさ）などが知られています。烏丸は、人名（元お公家さん）の場合には「からすまる」と呼びますので、ちょっとややこしいですね。太秦については、5世紀後半に在位したとされる雄略天皇の治世、渡来系の豪族秦氏が、絹を「充積」んで、つまり「うず高く積」んで天皇に献上したことから、「禹豆満佐＝うつまさ」の姓を与えられ、これに「太秦」の表記を当てたという説があります。地名には歴史が刻まれているわけです。

さて、次の京都の地名（通り名、神社名などを含みます）はなんと読むでしょうか。バス停や駅名にも使われている場合があります。

- ① 先斗町 ② 柳辻 ③ 化野 ④ 深泥池 ⑤ 車折神社 ⑥ 帷子ノ辻
⑦ 榎木町通 ⑧ 釜座通 ⑨ 壬生 ⑩ 笋町

（解答は24ページに掲載）

創立130周年記念館が竣工しました

2014年9月から建築工事が始められた新体育館兼中央講堂（仮称）は、昨年12月に竣工し、名称も「創立130周年記念館」と命名され、23日にはオープン祝賀会が盛大に催されました。その後、今年に入ってから、職員向けに1月6日に見学会、2月17日にトレーニングルームの説明会などが相次いで実施されてきました。

旧中央講堂兼体育館は、1972年に建設されました。この建物は2014年5月から解体が始まりましたが、学生たちのスポーツの場として、また毎年の入学式・卒業式の会場として40年以上にわたって使われてきたわけです。感謝の意を表したいと思います。

新築されたこの記念館は、以下の説明のなかに詳しく紹介されていますように、災害時の地域の避難施設としても位置づけられています。さらに、建物東側に歩道や植栽帯を、また三条通交差点に面してポケットパークを設けるなど、学生や近隣住民の通行の安全を確保するというような配慮もなされています。他方、最新の省エネ設備を取り入れるなど、自然環境にも目配りがなされています。

これから、この記念館が多くの学生たちのスポーツの場として、また何十回となく新しい学生たちを迎え入れ、そして有為の卒業生たちを社会に送り出す式典の場として、長く利用され続けることを念願しています。

KPU^{NEWS}編集委員長 鈴木 栄樹

Feature article.

■ 創立130周年記念館の施設概要

本施設は本学の創立130周年記念事業の一環として建替えられました。2014年（平成26年）5月より旧体育館の解体工事、9月より新築工事に着手し、約1年半の工事期間を終え、2015年（平成27年）12月に「創立130周年記念館」として命名され、無事竣工致しました。

当施設は地域の災害時の避難施設としても位置づけられており、耐震性・安全性を有した施設として建設されております。



正面（東側道路より）



正面（北面より）



三条通交差点より

◆施設の構造・規模

鉄骨鉄筋コンクリート造
地上3階建て（体育館（講堂）部分は1階建て）
建築面積 2,703.58㎡ 延床面積 3,611.37㎡

◆外観デザイン

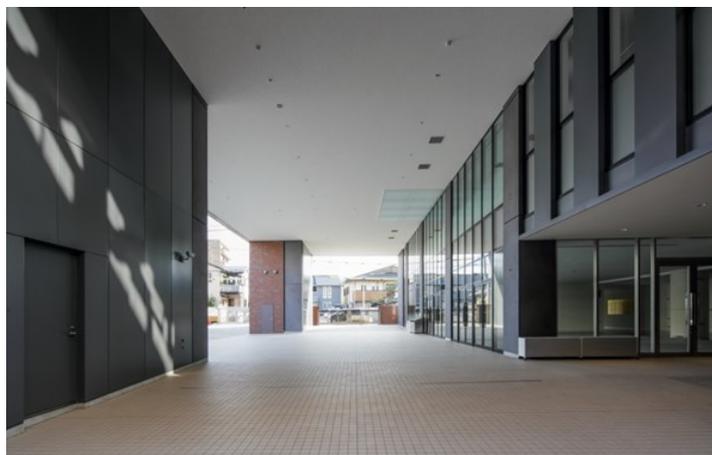
キャンパス内の既存建物との調和を考慮し、レンガ調タイルを基調とした外観デザインとしています。一部ピロティ面にはカーテンウォールやアルミキャストパネル等の金属系材料を採用しています。

◆平面計画（主要諸室）

- 1階：体育館（講堂）・舞台、エントランスロビー、ピロティ
- 2階：トレーニングルーム、更衣室・シャワー室、ギャラリー固定席
- 3階：健康科学分野諸室、設備室

◆ピロティ

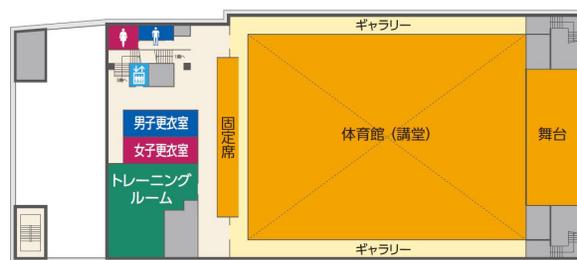
東門に面して学生を迎え入れる施設構えとして半屋外空間である2層吹抜けの開かれたピロティを設けています。ピロティは式典等催し時の大人数利用における滞留空間としても寄与します。



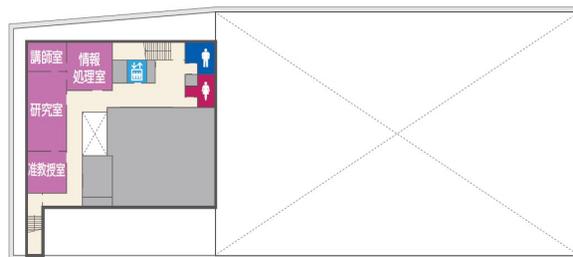
ピロティ



1階平面図



2階平面図



3階平面図

■ 施設構成

◆エントランスロビー

式典等催し開催時に大人数に利用して頂ける様、滞留空間として十分な広さを確保しています。空調（冷房・暖房）設備も設置しており、明るく、快適なエントランスとなっています。また、災害時には被災者の受入スペースとしても寄与します。



エントランスロビー（東側）



エントランスロビー（西側）

◆体育館（講堂）主要設備

バスケットボール2面、バレーボール2面、バドミントン6面コート



体育館利用



講堂利用

各コート間の寸法にも余裕を持たせたコート配置としており、天井の高さはバレーボールの国際大会基準である12.5mの高さを確保しています。上部には窓を設け、やわらかい自然光を取り入れています。また、一部開閉可能な窓を設け自然換気も可能となっています。窓には暗幕仕様のブラインドを併設しており、プロジェクター利用時や光に弊害のあるスポーツにも対応可能となっています。



全自動型観覧席



2階固定席

講堂利用時の機能として常設プロジェクターと舞台に300インチスクリーン（壁に映せば400インチまで可）、フロアに壁面収納式的全自動型観覧席（512席）を併設し、2階固定席（60席）並びに移動椅子も含め約1,000席を確保しており、入学式・卒業式等の式典や講演会・セミナー等の催しにも対応が可能です。照明は調光機能のあるLED照明を採用し、各催し毎に照度設定が可能となっています。また、空調（冷房・暖房）設備も兼ね備え、快適な教育空間を創出しています。

◆トレーニングルーム

吹抜けのピロティに面して配置しており、明るく、開放的にトレーニングすることが可能です。部活動や授業の活動の場にふさわしい最新型のトレーニング器具を取り揃えています。また、シャワーを併設した更衣室（男女別）も隣接して設置しています。



トレーニングルーム

■ 環境に配慮した省エネルギー設計

◆ 環境配慮への取組み

【太陽光発電・LED照明】

屋上全域に100kWの太陽光発電パネル（太陽電池）を設置しています。日中発電した電力は無駄なく本校地全域の建物で利用されます。

本学は自転車置場屋上にも50kWの太陽電池を有しており、総出力は合わせて150kW（一般家庭約40戸分に相当）となります。

体育館（講堂）内はLED照明を採用しており、従来光源（高圧放電灯）に比べ約60%の消費電力となります。また、従来に比べ瞬時点灯や調光が可能となり多様なイベントに対応しやすくなっております。

【地中熱利用】

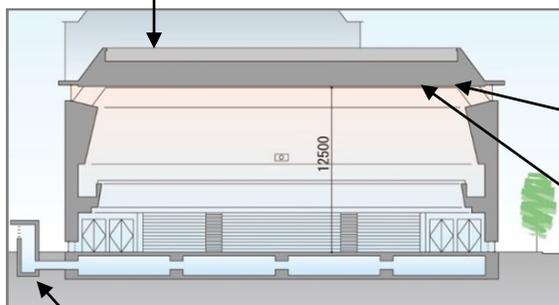
建物下のピット（クールピット）を経由した外気を空調機に送り込むことで地中熱を回収し、館内の空調負荷の低減を図り省エネルギー化を行っています。また中間期においてはピットから講堂へ直接外気を取り入れ自然換気を行うことも可能です。

【層流ファン】

層流ファンは体育館（講堂）内の暖房運転時、上下の温度差が一定値を超えると稼働し、上部に溜まる暖気ロスを改善します。



太陽光発電パネル



断面図



クールピット吸気口



クールピット吸気ファン



層流ファン

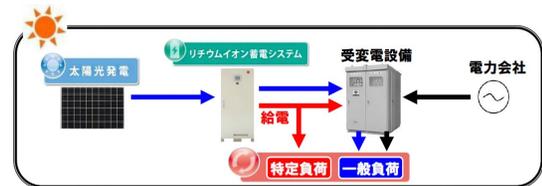


層流ファン（詳細）

【蓄電池システム】

太陽電池100kWのうち20kW分は防災型太陽光発電システムとしています。

太陽光がない夜間等に停電した場合は、蓄電池に蓄えておいた電力を利用し、災害時の避難施設として体育館（講堂）やトイレ等の照明、一部の空調・コンセントに供給できます。



日常



災害（停電）時



LED照明

■ 研究室

◆3階健康科学分野

3階には健康科学分野の諸室（准教授室・講師室・研究室・情報処理室）を配置しています。体育館（講堂）エリアとは離し、落ち着いて研究が可能な教育・研究空間（環境）としています。また、暗くなりがちな中廊下はトップライトからの自然光を取り入れた吹抜け（光庭）に面して配置しており、明るく快適な空間となっています。



研究室



3階廊下・光庭

■ 外構整備

建物東側には道路に沿って、大学所有地内に歩道・植栽帯を整備し、学生や近隣住民の通行の安全性を確保しています。また、三条通交差点に面しても溜り空間（ポケットパーク）を設けることで、信号待ちの人と歩道歩行者との緩衝や渋滞の緩和を図り、安全性を高めています。



東側歩道・ポケットパーク



渡り廊下（躬行館-育心館）



渡り廊下（躬行館-記念館）

体育館（講堂）と隣接する育心館や躬行館（講義棟・図書館棟）の間には雨に濡れずに移動出来る様、渡り廊下を設置しました。

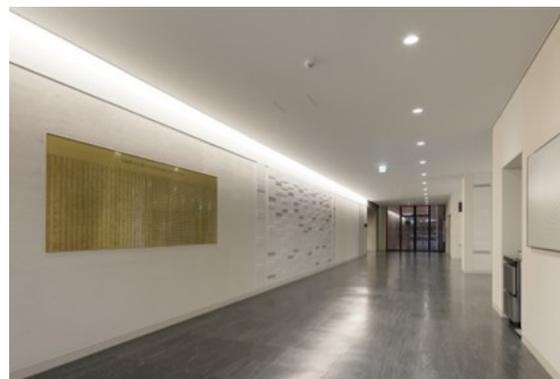
■ 最後に

◆建設寄付金・寄贈品

当施設は皆様からの多くの寄付金を建設費の一部とさせて頂いております。それを記念し、エントランス壁面に寄付銘板を掲示させて頂きました。また、大学同窓会である京葉会からは舞台にある緞帳・袖幕を寄贈頂きました。無事に竣工致しました御報告と共に厚く感謝並びに御礼申し上げます。



緞帳・幕



寄付銘板（エントランスロビー）

研究代表者 松田 久司

日時：2015年11月12日（木）15：30～18：10
 場所：京都薬科大学 A21講義室（愛学館2階）
 参加者数：135名

本キックオフシンポジウムは、今年度文部科学省私立大学戦略的基盤研究形成支援事業に採択された「優良和薬の確保・供給のための研究」課題の遂行にあたり、参画する全ての研究者の意識の統一を図るとともに、各研究者の連携による新たな共同研究体制構築の契機とすることを目的として企画された。本プロジェクトでは、国産生薬として当帰、柴胡、甘茶、延命草などの基原植物の栽培、生薬の有効成分群および薬効の証明を行うことにより、優良品種の選別と栽培技術を確認し、地域での生薬生産の推進に貢献することを目的としている。具体的には、品種や産地別の生薬の成分分析と薬効評価を行い、化学分野における多変量解析であるケモメトリックスにより単一の有効成分のみならず、有効成分群の解明と優良品種の選別方法を

確立し、本学薬用植物園が保有する薬用植物の栽培技術を応用することによって、生産地への優良品種の育種指導や種苗の提供を目指している。また、本学が保有する生薬標本は明治期まで遡ることができ、貴重な遺伝子資源となっている。現在の市場品と時系列で比較することによって、かつて流通していた生薬との同等性を明らかにすることができると考えている。



講演会場の雰囲気



後藤直正
副学長

キックオフシンポジウム当日には、開会に際して、後藤直正副学長から本プロジェクトの意義や本プロジェクトへの期待を開会の辞としてご挨拶いただきました。後藤副学長に続き、本プロジェクトの研究代表者である松田久司教授が、本プロジェクトの概要ならびに本プロジェクトがめざすものをイントロダクションとして講演を行いました。次に臨床薬理学分野の中田徹男教授が生活習慣の改善、特に食事の改善による高血圧治療についての講演を行い、続いて、学外

共同研究者として参画していただいている近畿大学森川敏生教授にご講演いただきました。森川先生には国内栽培が可能な生薬のうちの数種の頻用生薬の含有成分ライブラリーの構築およびその伝承薬効に基づいた生物活性評価についてお話しいただき、また、特別講演として日本製粉株式会社の日野明寛先生には機能性食品およびそれに含まれる機能性成分についてお話しいただきました。いずれの発表においても、学生および教員から多くの質問があり、活発な議論がなされました。最後に松田教授から本プロジェクトの目指すべき方向性を確認するとともに閉会の挨拶をいただきました。



15:30～15:35	開会挨拶 後藤直正（京都薬科大学・副学長）
15:35～15:45	プロジェクトの概要について
15:45～16:10	アマチャの新規生体機能 研究代表者：松田久司（生薬学分野・教授）
16:10～16:35	高血圧の非薬物療法 中田徹男（臨床薬理学分野・教授）
16:35～17:00	頻用生薬の優良品種選抜にむけた機能性成分の探索 —サイコ・センキュウ・チョウトウコウ— 森川敏生（近畿大学薬学総合研究所・教授）
17:00～17:10	休憩
17:10～18:10	特別講演 変化した食品の機能性表示と次世代機能性研究 日野明寛（日本製粉中央研究所副所長、新潟大学客員教授、（独）農業・食品産業技術総合研究機構フェロー）
18:10	閉会



松田久司教授



中田徹男教授



近畿大学
森川敏生教授



日本製粉株式会社
日野明寛先生

研究代表者 芦原 英司

日時：2015年9月25日（金）13：30～17：30

場所：京都薬科大学 愛学ホール

参加者数：143名

（職員31名、学部生・大学院生112名）

本キックオフシンポジウムは、今年度文部科学省私立大学戦略的基盤研究形成支援事業に採択された「新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立」課題の遂行にあたり、参画する全ての研究者の意識の統一を図るとともに、各研究者の連携による新たな共同研究体制構築の契機とすることを目的として企画された。本プロジェクトでは、本学が独自に開発してきた疾患関連評価系と創薬研究基盤を有機的に融合させることにより、超高齢化社会における健康長寿生活の実現に貢献できる“大学発創薬ベンチャー”基盤を確立することを目指す。具体的には、対象疾患として悪性腫瘍と認知症に焦点を絞り新たな創薬・予防薬シーズを発掘し、得られたシーズの学術的評価に

臨床評価を加味することでシーズのライセンスアウトをめざした産学連携プラットフォームを構築し、“山科から世界に”新規分子標的治療薬を発信する。また同時に、創薬開発研究を通じて新たな“知の創造”をめざし、わが国の将来の薬学研究を牽引する次世代の基礎ならびに臨床薬学研究者の育成をめざす。



後藤直正
副学長

開会に際して、後藤直正副学長から本プロジェクトの意義や本プロジェクトへの期待を開会の辞としてご挨拶いただいた。引き続き、本プロジェクトの研究代表者である芦原が、本プロジェクトのイントロダクションとして将来におけるアカデミアでの創薬研究のあり方ならびに「本プロジェクトでめざすもの」について講演を行った。次に研究シーズの紹介と今後の研究計画について、研究グループ（シーズ発掘・バリデーショングループおよび合成・相互作用解析グループ）研究参画者が講演を行い、それぞれが所有する興味深いシーズを確認した。さらに、本プロジェクト学外共同研究者として参画いただいている佐賀大学 木村晋也教授、近畿大学 藤田貢准教授にご講演をいただいた。木村先生には創薬から臨床研究に展開されたご自身の分子標的治療薬研究をお話いただき、また藤田先生には自発発生型脳腫瘍モデルマウスを用いた免

疫療法開発研究を中心としたトランスレーショナルリサーチについてご紹介いただいた。いずれの発表においても、学生、教員から多くの質問があり、活発な議論がなされた。最後に合成・相互作用解析グループリーダーの赤路健一教授が本プロジェクトの目指すべき方向性を確認し閉会の辞とした。



赤路健一教授

本シンポジウム終了後、小会議を持ちさらに議論を深めた。既に発掘されたヒット化合物を基に構造活性相関研究を開始している共同研究もあり、各グループ間で早期に共同研究体制が構築されることが期待された。最後に本プロジェクトの基本方針を再度確認し、小会議を終了した。今後も定期的に進捗会議をもち、分子標的治療薬候補化合物の創製を目指すとともに、新たな“知の創造”に向けた本プロジェクトを遂行していく。



木村晋也教授
（特別講演）



藤田貢准教授
（特別講演）



学生たちの活発な質問



講演会場の雰囲気

■プログラム

開会挨拶 後藤 直正（京都薬科大学・副学長）

プロジェクトの概要について

研究代表者：芦原 英司

（病態生理学分野・教授、シーズ発掘・バリデーショングループリーダー）

一般講演（1）「候補化合物のデザイン・合成と蛋白質相互作用解析」

小林 数也（薬品化学分野・助教） 小島 直人（薬品製造学分野・講師）

中村 誠宏（生薬学分野・准教授）

特別講演（1）「自発発生型脳腫瘍動物実験モデルが導くトランスレーショナルリサーチの展望」

藤田 貢（近畿大学・医学部・准教授）

一般講演（2）「新規治療・予防標的分子の探索と病態解析」

久家 貴寿（生化学分野・助教） 賀川 裕貴（細胞生物学分野・助教）

鬼頭 宏彰（薬理学分野・助教） 中田 晋（臨床腫瘍学分野・准教授）

特別講演（2）「分子標的薬を創る・使う・止める」 木村 晋也（佐賀大学・医学部・教授）

閉会挨拶 赤路 健一（薬品化学分野・教授、合成・相互作用解析グループリーダー）

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン主催

「A★STAR-KPU Joint Symposium」報告書

Event

病態生理学分野 教授 芦原 英司

日時：2015年11月9日（月）13：00～17：10

場所：京都薬科大学 愛学ホール

ホスト：臨床腫瘍学分野 教授 吉貴 達寛

病態生理学分野 教授 芦原 英司

主催：がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

参加者数：120名（職員23名、学部生73名、

大学院生20名、その他4名）

■概要

本A★STAR-KPU Joint Symposiumは、がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン主催のもと、学部生、大学院生、さらに若手教員の広い視野を確保することで、国際的に活躍できるがん研究者の育成を目的とするとともに、京都薬科大学とSingapore Immunology Network(SiGN), Agency for Science, Technology and Research(A★STAR)との継続的交流を今後さらに発展させるために実施された。“Close Encounters of Immunology”と題された本シンポジウムでは、講演・質疑すべて英語で実施され、がん研究において欠かすことのできない免疫学的な思考を養うために、この分野で活躍される演者に幅広い最新の免疫学領域の研究を紹介していただいた。2題の特別講演ではA★STAR, SiGNのPI*であるDr. Florent Ginhouxに基礎

かぼしま

研究の観点から全身の自然免疫に重要な働きをするマクロファージや樹状細胞の発生について、京都大学

梶島健治教授（A★STAR, SiGN, PI兼任）には臨床研究の観点から皮膚がんと免疫学についてのご講演をい

ただいた。一般公演ではDr. Andreas Schlitzer（A★STARのポスドク）から最先端の網羅的遺伝子発現解析方法であるSingle Cell Analysisを応用した免疫細胞の発生や機能解析について、高田和幸博士（本学病態生理学分野教員/A★STAR Visiting Scientist）からはiPS細胞から脳免疫担当細胞マイクログリアの作製とアルツハイマー病治療への応用へ向けた研究について、石原慶一博士（本学病態生化学分野教員）からはダウン症の克服に向けたモデルマウスを用いた治療ターゲットの探索について、藤井正徳博士（本学薬理学分野教員）からはアトピー性皮膚炎発症にかかわる遺伝子群の機能解析について、中田晋博士（本学臨床腫瘍学分野教員）からは脳腫瘍幹細胞のキャラクタライゼーションについてのそれぞれ講演をいただいた。

教員はもとより学部学生ならびに大学院生からの多



講演会場の雰囲気

※ PI: Principal Investigator

くの質問があり、講演後、A*STAR演者からも本学の国際化ならびにサイエンスへの取り組みと意識の高さに驚き感心した旨感想が寄せられた。本学の教員の一人として、本学の学生や教職員がすでに国際化を十分意識しており、その対策が中身を伴って着々と進んでいることを示す成果を肌で感じとることができた。継続的ならびに更なる国際化を進めることが京都薬科大

学の特徴づくりの一助となる手ごたえを感じた。乾賢一学長のOpening Remarks、報告者による主旨説明から始まり、本学臨床腫瘍学分野吉貴達寛教授のClosing Remarksで終了した白熱したシンポジウム後は、ミキサーが行われ、学生、教員、演者がともに和んだ雰囲気談話しており、盛況裡にシンポジウムが終了したことを実感した。



乾賢一学長
(開会の辞)



かばしま
栞島健治先生
(特別講演)



Dr. Florent Ginhoux
(特別講演)



Dr. Andreas Schlitzer
(一般講演)



高田和幸博士
(一般講演)



石原慶一博士
(一般講演)



藤井正徳博士
(一般講演)



中田晋博士
(一般講演)

■ 本シンポジウムの成果

- ・参加者ががん研究における免疫学の重要性についての理解を深めた。
- ・教員はもとより学生による積極的な質問が多数あり、これまでの本学の国際化への取り組みが実を結び、学内外への正の波及効果をもたらした。
- ・国際化に向け統合的、連携的かつ継続的な更なる場を提供する意義が明確化した。
- ・A*STARとの共同研究が開始された。



学生の質問風景

A*STAR-KPU Joint Symposium
“Close Encounters of Immunology”
— For Education of Young Cancer Investigators —

Date: 9th November 2015 Venue: Kyoto Pharmaceutical University, Room A31

Opening Remarks Ken-ichi Inui (The President, KPU) 13:00

Session I Chair: Dr. Kazuyuki Takata (SigN/KPU)

Dr. Andreas Schlitzer (SigN/University of Bonn) 13:10-13:35
 Single cell analysis of dendritic cells and monocytes
 —A new strategy to understand cancer, inflammation and autoimmunity—

Dr. Kazuyuki Takata (SigN/KPU) 13:35-14:00
 IPS cell-derived primitive macrophages as a therapeutic source of microglia for Alzheimer's disease

Session II Chair: Prof. Tatsuhiro Yoshiki (KPU)

Dr. Keiichi Ishihara (KPU) 14:10-14:30
 Deciphering developmental delays and cognitive impairments in mouse models of Down syndrome
 —Identifying molecular targets for development of pharmacotherapy—

Dr. Masanori Fujii (KPU) 14:30-14:50
 Role of the hairless gene in the development of diet-induced atopic dermatitis in mice

Dr. Susumu Nakata (KPU) 14:50-15:10
 Characterization of the Lgr5-positive brain cancer stem cells

Keynote Lecture I (Chair: Prof. Eishi Ashihara, KPU) 15:20-16:10
Prof. Kenji Kabashima (Kyoto University)
 Skin cancer and immunology

Keynote Lecture II (Chair: Prof. Eishi Ashihara, KPU) 16:20-17:10
Dr. Florent Ginhoux (SigN)
 Ontogeny of macrophages and dendritic cells
 —Implications for development, inflammation, and cancer—

Hosts: Prof. Eishi Ashihara (KPU), Prof. Tatsuhiro Yoshiki (KPU)
 Closing Remarks Prof. Tatsuhiro Yoshiki (KPU) 17:10
 Mixer ~18:00 Contact: kat@mb.kyoto-phu.ac.jp

Sponsorship: Promotion Plan for the Platform of Human Resource Development for Cancer Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology, JAPAN



OTC医薬品開発と薬学

山下 千裕



2007年 学部卒業
(生薬学分野)
2009年 修士課程修了
(生薬学分野)
興和株式会社入社
富士研究所勤務 研究員

在学生の皆さん、こんにちは。卒業してから随分経ちましたが、こうして後輩の皆さんと接点があったことをとても嬉しく思います。

私は2003年に、「臨床系の薬剤師になりたい」と漠然と考えながら京都薬科大学へ入学しました。しかしその後、修士課程へ進学し、現在は興和株式会社でOTC医薬品の薬理試験をするグループに所属しています。

当初の希望とは全く違う道を選んだものの、私自身、結果的にそこまでブレていないのかな、と感じています。薬学はさまざまな専門分野が集まった総合科学ですが、その根本にある「人間の健康と、その先の幸せな生活に貢献する」という目的から外れていないと考えているからです。

製薬企業での研究開発というと新薬の話題が主流なので、OTC医薬品は地味な印象かもしれません。医療用医薬品と比べると開発期間は短く、製品となるまでのハードルが低いのも事実です。その一方で、医師を介してではなく、患者さん自身に選ばれ、効

き目を実感できるようモノづくりをする必要があります。私の仕事は、どの成分を入れればより良い製剤になるか、配合時の効果に違いはあるか、などを薬効の面で評価することです。他の部署には、どんな人が使うのか、どんな剤形だと使いやすいのか、どんな処方だと品質が担保できるのか、などを検討する社員がいます。私たちの仕事は患者さんと直接触れあう機会こそありませんが、患者さんの不具合や不快感、その背景にあるライフスタイルを想像し、寄り添うことによって、薬学が目指すものに寄与できていると自負しています。そして自分の携わった製品が店頭に並び、患者さんの生活の中へ入っていくことに、面白さとやりがいを感じています。

6年制の皆さんは、私の時代と比べてより明確な意志をもって進学されたでしょうし、その分進路を変えるときは大きく悩まれるのでは、と思います。在学中には、研究室配属や外部機関での実習など、価値観を変える多くのきっかけがあります。しかし先に述べたように、薬学は人間の健康や幸せを支えるという理念をベースに、学んだことの数だけ着地点がある懐の大きい学問です。薬学部で身につけたことを活かして働く限りその基盤は崩れないので、興味のある道へ胸を張って進んでください。

最後に、厳しい定期試験や国家試験の経験は、皆さんの人生に薬剤師免許だけでなく、強さと自信と、それらを一緒に乗り越えた得難い友人を与えてくれます。楽しい思い出もたくさん作りながら、実りある大学生活を送ってください。

開館日程

2016年 4月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

2016年 5月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2016年 6月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

8:30-21:00

10:00-17:00

休館

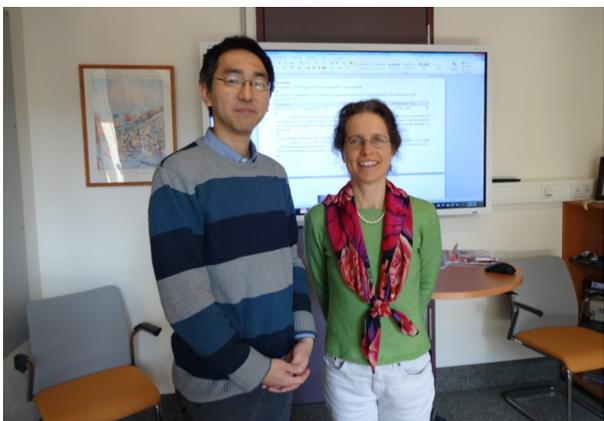
休館=館内整備

2014年4月より1年間、ドイツ・レーゲンスブルク大学のChemo- und Biosensorik研究室に客員研究員として留学いたしました。



Universität Regensburgの中庭から

留学先の研究室を主宰されている、Bäumner教授は2013年にこの大学の分析化学系長として、アメリカ・コーネル大学より転任されてきたばかりでした。研究室にはBäumner教授の他、教員が2名、テクニシャンや大学院生、コーネル大学からのポスドクが在籍していました。私はこの研究室で、「電気化学発光法におけるリポソームを用いたシグナル増感法の開発」をテーマに1年間研究に従事してきました。欧州特有のゆったりとした時間の流れに、生来ゆとりのない私は合わせるのに随分と苦労しました。ドイツ人から見ると、常にせわしなく動き回っている日本人と映っていたかもしれません。



Bäumner教授とミーティングルームにて

研究室では、毎週グループミーティングとセミナー発表がありました。グループミーティングでは、2週間ごとの研究の進捗状況を一部のラボメンバーの前で報告し、フィードバックを得ます。また、セミナーでは、3ヶ月間の研究結果を話す研究プレゼンテーションや関連研究を調査して報告する文献プレゼンテーションを行ないました。Bäumner教授はこのようなプレゼンテーション教育に特に力を入

れておられました。私が「失敗した」と思ったプレゼンテーションでも、「ワンドフル!」「非常に面白い話だった」とまずは好意的な意見を返してくれ、折れそうな私の心を何度救ってくれたかわかりません。“ほめて伸ばす”という欧米人の教育を実感しました。

一方、大学では留学生向けに、ドイツ語講座やティーパーティ、日帰り観光旅行、ボードゲーム大会、オペラやダンスなど様々な「おもてなし」が企画されていました。ドイツ語講座では世界各国の人々と一緒にドイツ語を学び、講義最終日にはメンバーとビアガーデンで大いに盛り上がりました。また、オーストリアとの国境付近にあるパッサウへの観光ツアーにも参加しました。ガイドの方に話を聞くと、ガイドはボランティアの学生であり、大学が企画したツアーに対して、都合の合う学生がガイドを務め、ツアー中の全ての段取りを任されているとのことでした。本学学生の留学生との交流の促進や英会話力の向上のために、この制度を本学に導入したいと思いました。

このような貴重な留学の機会を与えて下さった、理事長や学長を始めとした教育職員・事務職員の皆様に感謝し、この場を借りて厚く御礼申し上げます。また、最後になりましたが、私がドレスデンへ旅行に行ったとき、エルベ川沿いで買った、薬剤師(Die Pharmazeuten)の絵画に書かれていた最後の文章を学生諸君に送ります。本学を巣立つ皆さんがこの文章に象徴される薬剤師になることを心より願っております。

“Sie sind eben **Meister** der Pharmazie!”



Die Pharmazeutenの絵画

筆者は、2014年10月から2015年3月までの6ヶ月間、米国ウィスコンシン州立大学 Carbone Cancer Centerにおいて先進の臨床薬学教育および研究を学び、本学での教育・研究のさらなる充実に寄与することを目的に海外留学の機会を与えていただきました。今回このような機会を与えていただきました、多くの皆様のご理解、ご支援に心より感謝いたします。

米国ウィスコンシン州立大学は20以上の学部を擁する総合大学であり、大学附属病院に近接して医療系学部が設置されており、薬学部は2階建ての渡り廊下で病院と繋がっています。薬学部は3つの部門(Pharmacy Practice, Pharmaceutical Sciences, Social & Administrative Sciences)から構成されており、全63名の教員中約半数の29名がPharmacy Practice(実践薬学)の部門の所属です。

薬学部の1学年定員は140名で、いくつかの講義を薬学部生とともに聴講しました。ここでの授業の基本は、学生はあらかじめ電子掲示板であるMoodleシステムに配布されている電子ファイルのスライド資料を予習した上で午前の講義に臨んでいました。1コマ50分間の講義ではそのスライドがスクリーンに写し出され、学生は個人所有のパソコンやタブレット上でもその内容を閲覧しながらパソコン上のファイルにノートを取ったり、あるいはあらかじめ印刷したスライド資料に手書きでノートをとったりと、受講するスタイルは様々でした。講義の途中で理解力を確認する問題(Quiz)が1~2回出題され、問題がスクリーンに写しだされると学生はリモートコントローラーを取り出し、制限時間内にスクリーンに向かって解答番号のボタンを押すといった、ITを駆使した授業が展開されているのが印象的でした。

臨床演習科目では、学生が10人程度のグループに分かれあらかじめMoodleに設定された仮想患者の背景や症状の情報を収集して持ち帰り、自習形式で知識を得るスタイルがとられていました。その後、グループ討論でこの患者に対する薬物療法の評価・提供について薬剤師の視点でディスカッションを行います。演習を繰り返していくうちに新たな患者情報が追加されるなどの工夫がなされ、グループ毎に配置された臨床教員とのディスカッションを繰り返しながら演習が進められる様子を見ると、あたかも実際の臨床現場でカンファレンスを体験しているかのようでした。

さらにアドバンスドな科目では、一例として患者の遺伝子情報から薬物代謝能力を評価して適切な薬物治療の提供を考える演習があり、学生は基礎系と臨床系の2編の論文を精読した上で学生が主体となってSGD演習を行っており、今後の本学での臨床教育を

構築していくためにも非常に参考となるものでした。

臨床薬学教育現場に参加してノウハウを得る傍ら、指導者である女性のKolesar JM教授に申し出て臨床研究にも携わらせていただきました。基礎と臨床の研究に関わる一般的な認証と大学独自の認証を得た後、ある抗がん薬の相互作用解明を目的としたプロジェクトにおいてがん患者から得たサンプルの抗がん剤血中濃度測定およびデータ解析を担当しました。医療施設内での研究であり、測定機器は医学部生らと共同利用するなど、さまざまな国からの臨床研究者と接することで多くの刺激を受けました。

筆者は、臨床現場で薬剤師として特にがん治療に携わってきました。留学中にPGY2(post-graduate year two、卒業後2年目の薬剤師)薬剤師オンコロジーレジデント、すなわちがん治療を専門とする研修薬剤師に直接話を伺える機会を得たことは貴重な体験でした。ウィスコンシン州立大学は、全米で人気の高い薬剤師オンコロジーレジデント研修施設を備える大学のひとつであり、定数は年間2名ですが、この研修カリキュラムの実施には指導者として病院薬剤師及び大学教員16名が携わっており、指導者はすべて専門薬剤師であるか学位取得者、あるいは両方の取得者でした。日本ではこのような研修は各病院施設独自のカリキュラムで運営されていますが、米国では指導者は第3者機関により学会参加などによる研修が義務付けられ質が担保されています。薬剤師オンコロジーレジデントはがん医療に携わるだけでなく教育や研究の機会が与えられており、薬学生にとっては最新の臨床講義の受講できる機会となっています。

今回の留学では、先進の臨床薬学教育の現場を体験することで、多くの知識が得られました。今後はこれらの経験を生かし、微力ながらも本学の臨床薬学教育・研究の発展に力を注いで参りたいと考えております。皆様方のご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



指導教授(左)、筆者(中央)、学生(右)

氷結したMendota湖の上で

京都薬科大学大学院薬学研究科をより深く知っていただくために、2014年4月号(No. 177)から大学院研究活動等を報告しています。ぜひご覧ください。

- 2015年 -

■11月18日(水) 第14回「とにかく英語を口にしよう」-留学帰国報告-

薬学専攻博士課程4年次生 戸田侑紀さん(薬品化学分野)

“How could we Enjoy Life...and Science..” Universität Leipzig, Germany

ドイツでの研究留学の報告が行われ、教育職員、大学院生、事務職員など18名が参加し、活発な質疑応答が行われました。

■11月20日(金) 「英語プレゼンテーション・SGD」

Philip Hawke講師(静岡県立大学薬学部薬学科 科学英語分野 講師)



プレゼンテーションの様子



参加者全員での集合写真

■12月18日(金)

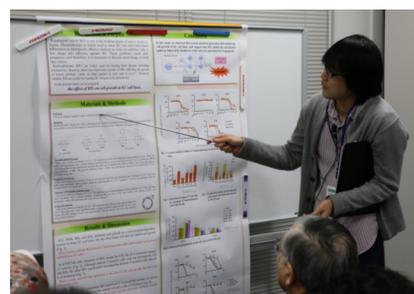
・第15回「とにかく英語を口にしよう」

—ポスターセッションを学ぶ(第4回)—

峯垣哲也助教(臨床薬学分野)

“Effects of bisphosphonate on cell growth in esophageal cancer cell line”

「骨粗鬆症治療薬の抗腫瘍効果」に関する研究内容について、ポスター形式での発表が行われました。教育職員や大学院生、学部生など28名が参加し、盛況でした。



第15回 峯垣助教

・第16回「とにかく英語を口にしよう」

小暮健太郎教授(薬品物理化学分野) “Conversations with Professor Kogure”

- 2016年 -

■1月19日(火)平成27年度5大学連携「医療フォーラム」

場所: 芝蘭会館 稲盛ホール

- ・薬学専攻博士課程4年次生高田哲也さん(病態生理学分野)が教育研究成果発表を行いました。
「神経膠芽腫幹細胞におけるイオン輸送体関連分子の発現量解析および阻害評価」
- ・薬学専攻博士課程4年次生地寄悠吾さん(臨床薬学教育研究センター)が教育研究成果発表を行いました。
「母集団薬力学モデル解析とベイズ推定を用いたGC療法後の骨髄抑制経時変化予測」

■1月20日(水)

・第17回「とにかく英語を口にしよう」-Pacifichem2015参加報告&ハワイ滞在記-

内藤行喜助手(代謝分析学分野)・薬学専攻博士課程2年次生西口貴之さん(代謝分析学分野)

2015年12月15日~20日、ハワイで開催されたPacifichem2015の参加報告とハワイでの滞在の様子が紹介されました。教育職員、大学院生、学部生など17名が参加し、活発な質疑応答が行われました。

■1月20日（水）

・2015年度後期 課程によらない学位論文学位授与

1名の学位授与が決定しました。

■1月25日（月）薬学専攻博士課程・薬科学専攻博士後期課程学位論文口述発表

薬学専攻博士課程5名、薬科学専攻博士後期課程2名による口述発表を行いました。

■2月18日（木）・19日（金）「英語プレゼンテーション・SGD」—Mini Conference 2016—

Philip Hawke 講師（静岡県立大学薬学部薬学科 科学英語分野 講師）

小暮 健太郎 教授（徳島大学大学院 医歯薬学研究部 衛生薬学分野 教授）

18日のMini Conferenceでは、教育職員及び大学院生20名が発表を行いました。Philip Hawke先生の指導が行われるとともにご参加いただいた多数の教育職員、大学院生、学部生による活発な質疑応答が行われました。19日は、発表者が18日の発表をビデオで振り返りながら、Philip Hawke先生から個別に指導を受けました。



第18回 武上准教授

■2月24日（水）第18回「とにかく英語を口にしよう」

—ドイツ・レーゲンスブルク大学留学体験記—

武上茂彦准教授（薬品分析学分野）

1年間のドイツ・レーゲンスブルク大学での留学報告が行われ、教育職員、大学院生、学部生など20名が参加し、活発な質疑応答が行われました。

NEWS

他大学の科目・講座を受けてみませんか!!!

教務課

【単位互換制度】

本学は「大学コンソーシアム京都」の単位互換制度に参加しており、京都地域を中心とした大学・短期大学が提供する科目を履修し、単位を修得すれば本学の単位として認定されます（2015年度は48大学から589科目が提供されました）。つまり、京都薬科大学に在籍しながら他大学の授業を受講することができるわけです。修得した単位は、1年間1科目2単位まで（通年

科目は1科目4単位まで）を限度として、本学の卒業要件である「人と文化」の選択科目の単位として加算されます。（2011年度までの入学生については、1年間2科目4単位までを「人と文化」の単位とし、それを超えて履修した科目の単位については、自由科目として認定されます）。本学での取扱いについての詳細は、学生便覧及びシラバスを参照して下さい。

■ 単位互換制度の特徴として、

- ①講義科目は文化・芸術・政治・自然科学などほぼ全ての学問分野にわたる科目が10テーマに分類され提供されている。
- ②講義形態は持出講義、既存講義があり、持出講義は集中講義や土曜日・夏季休暇期間に開講されるなど、他大学生でも受講しやすいよう工夫されている。
- ③持出講義は、「キャンパスプラザ京都」（京都駅前）にて開講される。
- ④講義を受講することにより、他大学生との交流の機会が広がる。
- ⑤受講生は単位互換履修生として、科目開設大学の図書館等を利用することができる。
- ⑥全ての科目を無料で受講できる（ただし、科目によっては、参考書等テキスト代等が必要）。

などという点も、この制度の大きな特徴と言えるでしょう。

- 受講の申し込みは、前期・集中・後期科目とも4月13日（水）までにWebにて出願票作成後、教務課に提出して下さい。詳しい出願方法・授業概要等については大学コンソーシアム京都のホームページで確認して下さい。また、大学コンソーシアム京都ではホームページ上で単位互換科目のシラバスを公開しています。

<PC><https://el.consortium.or.jp/login.php> / <携帯><https://el.consortium.or.jp/cns510.php>

※科目開講時には休講・補講・試験等の連絡事項も閲覧することができます。

学生生活における経済的な不安を少しでも解消し、安心して勉学に励むことができるように奨学金制度があります。

募集については、随時奨学金用掲示板（愛学館1階事務室前）でお知らせします。出願の機会を逃さないようにして下さい。

なお、家計が急変した場合には、緊急・応急での採用も随時可能ですので、学生課に相談して下さい。

■ 日本学生支援機構奨学金

経済的理由により修学に困難がある優れた学生に対し学資として貸与されるもので、貸与が終了した後、必ず返還しなくてはなりません。家庭の経済状況等に基づき、奨学金の貸与を受ける必要性、適正な金額、返還時の負担のことなどを十分考慮のうえ申込みをして下さい。定期募集は、年1回4月の募集のみです。奨学生に採用されると、卒業するまで貸与を受けることができます（留年中は停止）。

【奨学金の貸与月額】

奨学金の種類	貸与月額	
第一種奨学金 (無利子貸与)	自宅月額	30,000円、54,000円（何れかを選択）
	自宅外月額	30,000円、64,000円（何れかを選択）
第二種奨学金 (有利子貸与)	30,000円、50,000円、80,000円、100,000円、120,000円の中から希望月額を選択 さらに最高月額（120,000円）に月額20,000円の増額希望可能	
入学時特別増額貸与 奨学金（有利子）	10万円、20万円、30万円、40万円、50万円の中から選択（大学1学年において 入学年月を始期として奨学金（第一種・第二種）の貸与を受ける者が対象）	

【奨学金の選考基準】

奨学金の種類	募集月	学力基準	年収・所得の上限額の目安			
			給与所得世帯		給与所得以外の世帯	
第一種奨学金 (無利子貸与)	4月	高校 評定平均値 3.5以上	通学形態	上限額	通学形態	上限額
			自宅	824万円	自宅	392万円
			自宅外	871万円	自宅外	439万円
第二種奨学金 (有利子貸与)	4月	特に定めない	通学形態	上限額	通学形態	上限額
			自宅	1,167万円	自宅	735万円
			自宅外	1,214万円	自宅外	782万円

注) 1. 年収・所得の上限額は、4人世帯の場合の父母の年収・所得金額の目安です。世帯員の人数、家庭事情等により異なります。

2. 給与所得者（年金受給者を含む）の場合は、源泉徴収票の支払金額（税込）です。

3. 給与所得者以外の場合は、確定申告書の所得金額です。

4. 基準を満たしていても、日本学生支援機構からの推薦内示数の関係で採用されない場合があります。

■ 京都薬科大学独自の奨学金

給付・減免型奨学金は返済の必要がない奨学金です。貸与型奨学金の募集については、掲示板でお知らせします。

名称	金額（年額）	採用予定数（2016年度）	備考
京都薬科大学 給付型奨学金	新入生：半期授業料の1/2 在學生：5万円～20万円	新入生：約10名 在學生：各学年約20名	入試成績又は前年次成績の優秀者を大学が選考
京都薬科大学 授業料減免型奨学金	半期授業料の減免	約20名	在学中4回まで※1 随時
京都薬科大学 貸与型奨学金	年額授業料の1/2以内	約10名	無利子 原則在学中1回 毎年9月募集
京都薬科大学 遠隔地出身学生 給付型奨学金	年額60万円 (月額5万円)	1～4年次生：各学年約10名※2	最長で4年間受給可能 自宅が近畿2府4県以外にあり、 下宿生活をしている学生 毎年4月募集

※1. 家計急変者（家計支持者の死亡、失業、廃業等）に限る

※2. 2015年度入学者より適用

■ その他の奨学金

地方自治体や企業、その他団体の奨学金制度があります。募集のつど掲示板でお知らせしますので確認して下さい。本学に募集依頼がきていなくても多くの地方自治体が奨学金制度を設けていますので、希望者は出身地の教育委員会に直接問い合わせして下さい。

【学生課を通じて募集している主な奨学金】（2015年度実績）

奨学団体名	種別	月額	出願資格
石川県教育委員会	貸与	44,000	保護者等が石川県内に引き続き3年以上居住している人
宮崎県教育委員会	貸与	63,000	生計を主として維持する方が、宮崎県内に居住している人
山口県ひとつづくり財団	貸与	52,000	保護者が山口県内に生活の本拠を有する人
朝鮮奨学会	給付	25,000	国籍が韓国もしくは朝鮮の学生
あしなが育英会	貸与	40,000	保護者が病気・災害等で死亡またはそれらが原因で後遺障害を負っている人

自治会執行部主催 クリスマス企画

2015年度も自治会では、クリスマス企画を実施しました。

試験が近付き、勉学に励む皆様に少しでもクリスマスの雰囲気を感じて頂きたく、愛学館にツリーとクリスマスに相応しいBGMを流しました。

今後とも自治会では、学生が楽しく豊かな学生生活が送れるような企画を行いたいと考えております。

最後に、今回のクリスマス企画の実施にあたり、協力して下さいました学生課と教育後援会の皆様への感謝の意も、併せてこの場で述べさせていただきます。



2016年度の学部入学試験が終了しました。志願者数および合格者数は表の通りです。

2016年度入学試験の志願者数は前年比234名(8.7%)減少し、2,453名となりました。志願者減少の背景には文系人気の回復および薬剤師国家試験難化の影響があったと考えています。昨年に引き続き、近年顕著であった「文低理高」に変化が見られ社会科学系などの文系学部の人気が回復し、理系学部の人気頭打ちが見られました。理系学部の中でも薬学の志願者減が顕著であり、本学もその影響を大きく受けたと考えられます。

入試広報活動は、オープンキャンパス、進学説明会・相談会、模擬講義、高校訪問、予備校訪問、母校訪問等の活動により積極的に志願者確保に努めました。中でも、在学生による母校訪問に力を入れ、25名の学生による母校訪問を実施しました。また、オープンキャンパスは多くの学生広報スタッフの協

力を得て、例年以上に活気あるものとすることができました。来年度以降も学生広報スタッフの募集を継続しますので、興味のある在学生の皆さんは是非説明会に参加してください。

2017年度入学試験においても広報活動を通じて本学が育成する「ファーマシスト・サイエンティスト」の魅力を伝え、志願者獲得に努める所存です。皆様のご支援、ご協力よろしくお願いたします。

	募集人員	志願者数	合格者数
指定校制推薦	50名	53名	53名
一般公募制推薦	80名	308名	82名
一般入学試験A方式	45名	896名	361名
一般入学試験B方式	180名	1,182名	452名
一般入学試験C方式	5名	14名	6名

(合格者数は3月15日現在)

2016年度大学院冬季募集及び二次募集の入学選考結果

2016年度薬学専攻博士課程(冬季募集)および薬科学専攻博士後期課程(冬季募集)の入学選考を1月29日(金)に実施し、同日に合格発表を行いました。

2016年度薬科学専攻博士前期課程(二次募集)の入学選考を2月17日(水)に実施し、2月23日(火)に合格発表を行いました。

博士課程(冬季募集)の志願者は8名で合格者は8名でした。博士後期課程(冬季募集)の志願者は2名で合格者は2名でした。博士前期課程(二次募集)の志願者は1名で合格者は1名でした。

■ 2016年度薬学専攻博士課程(冬季募集)の合格者数等

	冬季募集	2016年度合計 (夏季募集含む)
志願者数	8名	15名
受験者数	8名	14名
合格者数	8名	14名

■ 2016年度薬科学専攻博士後期課程(冬季募集)の合格者数等

	冬季募集	2016年度合計 (夏季募集含む)
志願者数	2名	2名
受験者数	2名	2名
合格者数	2名	2名

■ 2016年度薬科学専攻博士前期課程(二次募集)の合格者数等

	一般	2016年度合計 (一次募集含む)
志願者数	1名	1名
受験者数	1名	1名
合格者数	1名	1名

2016年度のオープンキャンパスを下記の日程で行いますので、お知り合いの受験生、高校生、そのご父母および高等学校の先生方などに、是非ご案内下さいますようお願いいたします。

詳細につきましては、本学ホームページをご覧ください。入試課にお問い合わせ下さい。

■2016年6月のオープンキャンパス

〈日時〉2016年6月5日（日）10：00～13：00

〈主な内容〉

大学紹介・在学生の話・卒業生の話・施設見学
相談会などを予定しています。

■2016年8月のオープンキャンパス

〈日時〉2016年8月6日（土）・8月7日（日）

午前の部 9：00～12：00

午後の部 13：30～16：30

〈主な内容〉

大学紹介・体験実習・在学生の話・施設見学
相談会などを予定しています。

■2016年10月のオープンキャンパス

〈日時〉2016年10月30日（日）10：00～13：00

〈主な内容〉

大学紹介・在学生の話・卒業生の話・施設見学
相談会などを予定しています。

お問い合わせ

入試課

T E L : 075-595-4678

F A X : 075-583-2232

E-mail : kpu-koho@mb.kyoto-phu.ac.jp

管弦楽部

こんにちは。京都薬科大学管弦楽部です。経験の有無を問わず様々な学生が集まり、年に一回行われる定期演奏会を大きな目標に日々練習に取り組んでいます。また学祭、式典などの学校行事や施設等での依頼演奏をする機会にも積極的に参加しています。昨年行われた第43回定期演奏会も先生方のご指導、顧問の橋詰先生、OB・OG、エキストラの方々の支えもあり無事に成功させることができました。さて、今年も11月26日に行われる第44回定期演奏会に向けて練習を開始しました。去年の定期演奏会を越える素晴らしい定期演奏会となるよう日々練習を行っておりますので、是非この管弦楽部の活動を注目していただけると嬉しいです！

硬式野球部

本学硬式野球部の歴史は古く、現存するOB会名簿では京都薬学専門学校4期生（1925年卒）に遡る。1954年には工織大、龍谷大、大谷大、西京大（現府立大）、学芸大（現京教大）の6校で京都6大学野球連盟を創立した。その後、滋賀大が加盟したため、京滋大学野球連盟となった。京滋リーグには現在13校が加盟しており、本学はII部に属している。1987年のII部優勝以降、低迷期が続いたが、最近では復調してきた。また岐薬、大薬、名城薬学部と対戦する関西薬連ではいつも好成績を維持している。2016年度春季リーグ戦は3月末日に開催されるが、部員一同優勝を目指して練習に励んでおり、今後の活躍が期待される。

マンドリン部

こんにちは。マンドリン部です。マンドリン以外にもギターやコントラバスも一緒に演奏します。大学から楽器を始めた人ばかりですが部員同士で協力したり、先生の御指導をいただいたりしながら練習に取り組んでいます。主に年に一度の定期演奏会に向けて練習を重ねています。ほかにも4月末に行われる全日本学生マンドリン連盟・京都ブロックの合同演奏会に参加し他大学とも交流します。部活中は真剣に演奏したり、アドバイスを言い合ったりしますが、普段は学年をまたいで仲が良く、和気あいあいとした雰囲気での部活です。

ソフトテニス部

活動実績

関西薬学生ソフトテニス六校リーグ

男子団体 4位

女子団体 1次リーグ2位

個人戦 男子 森・山本ペア ベスト8

女子 森川・鳥本ペア ベスト8

個人戦は男女ともにベスト8決定時で雨天により中止

今後の予定

4月 関西医歯薬ソフトテニス大会

5月 四薬戦

8月 関西薬学生ソフトテニス大会

11月 関西薬学生ソフトテニス六校リーグ

4月上旬、新入生以外の学生の保証人様あてに学費等の納付書を送付いたします。納入期限は以下のとおりですので、遅れないように学費等を納めて下さい。

学費等の納入期限：前期分 4月30日

- やむを得ない事情でこの期日までに納付できない場合、学生相談員(3年次後期以降は分野主任)に相談し、速やかに学費延納願を提出して下さい(学費延納願の手続きは学生課で行っています)。
- 期日までに納入しない時は、講義・実習等の出席及び証明書の発行が停止され、正規試験等の受験資格を失うほか、進級・卒業にも影響し、場合によっては退学処分となるため、十分注意して下さい。

<納入手続きのお願い>

金融機関で納入のお手続きをされる場合、本学から発送しました**納付書**をご利用下さいますようお願いいたします。

本学指定の金融機関をご利用いただきますと、振込手数料が無料となります。

なお、インターネットバンキングやATMをご利用される場合は納入確認が困難な事例が発生しておりますので、以下の点に十分ご注意下さいますようお願いいたします。

①振込人は本学納付書の太枠のお振込人欄に印字された**整理番号、学生氏名、金額**を必ず正しく入力して下さい。

【注意】

保証人名義や家族名義、その他の名義の預金口座から振り込まれることがあり、すぐに納入確認ができない事例が発生しています。

②**振込先の金融機関の預金口座**を確認し正しく入力して下さい。

2011年度以前に入学した学生には毎年、前期に学生自治会費※の納付書も同封していますが、自治会費は大学が代行して請求、収納業務を行っています。

そのため、学費と自治会費は金融機関が**全く別の預金口座**で管理しています。

学費と自治会費を合わせた金額が振り込まれたり、学費と自治会費の預金口座を間違えて振り込まれている事例が多くありますので、気を付けて下さい。

(※2012年度以降に入学した学生の自治会費は入学手続き時に納入済です。)

コトバの『豆クイズ』の解答

(5ページの解答)

- ①「ぼんとちょう」 京都の五花街の1つとして有名。先斗町という町があるわけではなく、通りの名でもあります。間違えて「ぼんとちょう」と呼ばれることもあります。
- ②「なぎつじ」 山科区にある地名で、地下鉄東西線の駅名としても使われています。
- ③「あだしの」 京都盆地の東山の鳥辺(部)野(とりべの)と並んで西の葬送地として知られています。「あだし」とは「はかない」の意味。化野念仏寺では8月下旬に無縁仏を供養する千灯供養が行われます。
- ④「みどろ(が)いけ/みぞろ(が)いけ」 北区にある周囲1.5kmの小さな池で、氷河期以来の生物が今も生き続け、国の天然記念物。バス停の名前としては「みどろがいけ」。
- ⑤「くるまざきじんじゃ」 右京区嵯峨にある神社。芸能人や芸術家の信仰を集めています。
- ⑥「かたびらのつじ」 京福電気鉄道のいわゆる嵐電(らんでん)の駅名となっていますが、町名の時には、「帷子ヶ辻」と表記して同じ読みをします。
- ⑦「さわらぎちょうどおり」 丸太町通の一筋北側の東西の道路。町名としては、東樞木町があります。
- ⑧「かまんざどおり」 京都府庁の正面から南に伸びる通りです。茶釜などの鋳物職人が多く住んでいたようです。
- ⑨「みぶ」 中京区の地名(旧村名)です。幕末に新選組の屯所があった所として知られています。
- ⑩「たかんなちょう」 「筍」は「筍」のこと。烏丸通の四条と錦小路との間の両側に出来た町です。祇園祭では孟宗山を出します。孟宗は、病気の母親のため、寒中に筍を掘り出して食べさせた中国の孝子です。

■ 2016年度 卒業教育講座（講演）

開催日	10:00-11:30	12:45-14:15	14:30-16:00
2016年 5月15日 (日)	パーキンソン病の診断と治療 ー最近の進歩ー	不眠症薬物療法の最新トピックス	「地域包括ケアの完成を目指して」 ～三方よし研究会の試み～
	京都大学大学院 医学研究科 脳病態生理学講座 臨床神経学(神経内科)	滋賀医科大学医学部附属病院 精神科	医療法人社団 小串医院 NPO法人 三方よし研究会代表
	教授 高橋 良輔 先生	特任教授 角谷 寛 先生	理事長 小串 輝男 先生
2016年 6月19日 (日)	がん薬物療法の最新の話	緩和医療	婦人科疾患と漢方
	京都大学大学院 医学研究科 腫瘍薬物治療学講座	大阪府済生会野江病院 消化器外科	関西医科大学附属滝井病院 産婦人科
	准教授 松本 繁巳 先生	副院長兼部長 足立 幸人 先生	医師 梶本 めぐみ 先生
2016年 7月10日 (日)	機能的農作物による疾病予防	ウイルス性肝炎の最新の治療	検査値で見た処方箋
	京都府立医科大学	大津市民病院 総合内科・消化器内科(肝臓部門)	京都府立医科大学附属病院 薬剤部
	学長 吉川 敏一 先生	診療部長 高見 史朗 先生	薬剤部長 四方 敬介 先生

*受講料：12,000円（テキスト代含む）

*定員：360名

*認定単位：G01 共催・公益財団法人 日本薬剤師研修センター 1日/計3単位（注：配付条件あり）

*申込受付期間は2016年2月18日（木）～3月21日（月・祝）までですが追加受付をすることがあります。

■ 2016年度 研究支援セミナー1（PC演習・入門編）

*日時：2016年8月21日（日）13:00～15:00（120分×1コマ）

*受講料：3,000円（テキスト代含む）

*定員：50名

*PC基本操作必須：Windows7/office2010

*講師：京都薬科大学 情報処理教育研究センター長・教授 藤原 洋一 先生

*認定単位：G01 共催・公益財団法人 日本薬剤師研修センター 1日/計1単位（注：配付条件あり）

*申込受付期間：2016年4月11日（月）～6月19日（日）WEB申込フォームからの受付限定

■ 2016年度 研究支援セミナー2&3（講義&PC演習・基礎編）

*日時：2016年9月11日（日）12:00～17:20（前半講義90分×2コマ、後半PC演習120分×1コマ）

*講師：京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター長・教授 矢野 義孝 先生（講義、PC演習）

本学臨床薬学教育研究センター 助教 松村 千佳子 先生（講義）

*受講料：5,000円（テキスト代含む）

*定員：50名

*PC基本操作必須：Windows7/office2010

*認定単位：G01 共催・公益財団法人 日本薬剤師研修センター

講義：1日/計2単位、PC演習：1日/計1単位（注：配付条件あり）

*申込受付期間：2016年4月18日（月）～7月10日（日）WEB申込フォームからの受付限定

■ 問合せ先：京都薬科大学 生涯教育センター

*TEL：075-595-4677（TEL受付時間 平日のみ 10:00～16:00）

*FAX：075-595-4683（24時間受付）

*E-mail：skc-web@mb.kyoto-phu.ac.jp

◆ 詳細はホームページ(<http://skc.kyoto-phu.ac.jp/>)をご参照ください。

◆ 申込受付期間、プログラム内容等は変更される場合があります。

◆ 申込受付期間終了後でもお申込を受付できる場合がありますのでお問合せください。

■ 困った時・困る前に相談してみませんか？

4月、学生の皆さんは新学期を迎え、いよいよそれぞれの学年の始まりですね。

新入生の方はこれから始まる学生生活にさまざまな期待や不安を抱いておられるのではないのでしょうか。2年次生以上の皆さんも、直面している課題等を前にさまざまな感情が持ち上がっておられるかもしれませんね。

大学生活の6年間、多種多様な課題や問題にゆきあたると思います。たとえば、勉強、研究は勿論のこと、大学卒業後の進路、将来について、人間関係、アイデンティティに関わること等、さまざまな形をとって自分の前に現れてきます。容易にクリアできる課題ばかりではなく、取り組みに試行錯誤する難題もあるでしょう。意欲的に取り組めばクリアできると思っていたのに期待通りの成果を得られない。これまでのやり方や考え方が通用せず、途方にくれて自信を喪失してしまう。学生の皆さんの誰しもが、そのような苦境に直面する可能性を有しています。困難な局面に窮したとき、より注力して奮闘したり、周囲の人間に助言を仰いだり、助力を求めたりしながら、なんとか乗り越えてゆく体験は皆さんの成長や生きる力に繋がってゆく筈です。

とはいえ、難題につまずいて手も足も出ない気持ちに囚われたり、逃げ出してしまいたいという気持ちで心が占領されたりしそうなことがあるかもしれません。実際に動きがとりにくくなることもあるかもしれません。そんなときに学内には皆さんを手助けする相談先があることを思い出してください。学生相談員の先生や研究室の先生方、さまざま

な相談窓口（学生課、教務課、進路支援課等）、学びコンシェルジュ、医務室など、数多くの相談先があります。

そうした相談先のひとつに学生相談室もあり、臨床心理士の資格を持つカウンセラーが、皆さんが直面している課題や問題について共に考え、皆さん自身がそれらを乗り越える力をつけるためのサポートを行っています。ひとりで考え悩むことも大切な成長の糧になると思いますが、なんとかしようと孤軍奮闘するあまり疲弊しきってしまっただけでは元も子もありません。学生相談では、皆さんがどうしてそのような課題や悩みにつづったのか、どうすれば乗り越えられるのかについて共に考え、問題の改善や解決のお手伝いをさせていただきます。

学生相談室は相談をお受けするだけでなく、相談の内容に応じて適切な相談先にお繋ぎするサポートも行っております。どこに相談してよいのかわからず困っているようなことがあれば、ひとまず学生相談室を利用して見て下さい。学生相談室は困ってから行く場所として認識されやすいのですが、そうであると同時に、困る前に、行き詰まらないために利用する場所でもあることを心に留めておいていただき、どうぞ気軽に足を運んでいただければ幸いです。

また、学生相談室では保護者の方から本学に在籍しておられるお子様に関するご相談もお受けしております。カウンセラーへの相談を希望される場合は、ご連絡ください。

(臨床心理士 建部 有里)

■ 学生相談室のご案内

● 相談

学生相談室における相談は、臨床心理士が担当し、学業、進路、課外活動、将来、対人関係、性格、家族、心身の健康についてなど、事の大小に関わらず学生生活に関わる様々な悩みや問題について幅広い相談をお受けしています。皆さんが気持ちや考えを整理したり、問題解決の糸口を探るためのお手伝いをいたします。

● サロンの開室

学生相談室内にサロンがあり、開室時に開放しています。疲れたとき、ホッとしたいときに、学内での居場所のひとつとしてご利用ください。飲食も可能です。

● 相談申込み・問合せ先

学生相談室 育心館 4階

相談を希望される方は、学生相談室に直接来室してお申込みいただくか、電話もしくはメールにて予約をお願いいたします。相談は無料です。

- ・開室（受付）時間：月～金 8：45～17：15
- ・電話：075 - 595 - 4672
- ・メール：gakusou@mb.kyoto-phu.ac.jp

※1 予約の際は、氏名、学籍番号、相談を希望する日時（第1・第2希望）をお知らせください。

※2 メールは予約受付のみで、相談対応は行っておりませんので、ご了承ください。

■ 2015年度卒業証書・学位記（学士）及び学位記（博士・修士）授与式

2015年度卒業証書・学位記（学士）及び学位記（博士・修士）授与式を、3月19日（土）午前10時から創立130周年記念館で執り行いました。

学部 薬学科363名に卒業証書・学位記（学士）を授与、大学院 博士課程5名、博士後期課程2名、博士前期課程2名及び課程によらない博士1名に学位記

（博士又は修士）が乾学長より授与されました。

式終了後、午後1時より、同創立130周年記念館で、京薬会主催の「卒業記念祝賀会」が開催され、職員をはじめご父母の皆様が、卒業生の新しい門出を祝いました。

人事

採用

薬学教育系教育研究総合センター
 臨床薬学教育研究センター 教授 楠本 正明
 生命薬科学系衛生化学分野 助教 大石 晃弘
 生命薬科学系病態生理学分野 助教 戸田 侑紀
 生命薬科学系公衆衛生学分野 助教 松本 崇宏
 薬学教育系教育研究総合センター
 薬学教育研究センター 助教 高橋 由佳
 薬学教育系教育研究総合センター
 臨床薬学教育研究センター 助手 地寄 悠吾
 薬学教育系教育研究総合センター
 学生実習支援センター 助手 千原 佳子
 薬学教育系教育研究総合センター
 学生実習支援センター 助手 徳山 友紀
 （契約職員）
 理事長特別補佐 村澤 悟
 事務局長代行
 （特命教員）
 薬学教育系教育研究総合センター
 臨床薬学教育研究センター 特命教授 高山 明
 薬学教育系教育研究総合センター
 臨床薬学教育研究センター 特命教授 小野 敏明
 薬学教育系教育研究総合センター
 臨床薬学教育研究センター 特命教授 北村 良雄
 （教育研究支援教員）
 分析薬科学系代謝分析学分野 助教 有光 健治
 （臨床研究・実務指導教員）
 病態薬科学系薬理学分野 助教 丹羽 里実
 （契約職員）
 法規・業務改善支援職員 安本 義仁
 （以上 2016. 4. 1付）

昇任

医療薬科学系薬剤学分野 准教授 勝見 英正
 創薬科学系薬品化学分野 講師 小林 数也
 （以上 任期：2016. 4. 1～2021. 3. 31）
 事務局企画・広報課
 企画・広報課長 川勝 章広
 国際交流推進室長兼務
 事務局入試課 入試課長 森 洋介
 （以上 2016. 4. 1付）

再任

医療薬科学系薬物動態学分野 講師 伊藤由佳子
 （任期：2016. 1. 1～2020. 12. 31）

創薬科学系薬品製造学分野 助教 岩崎 宏樹
 分析薬科学系代謝分析学分野 助手 内藤 行喜
 （以上 任期：2016. 4. 1～2021. 3. 31）

配置換

共同利用機器センター 助教 服部 恭尚
 （2016. 4. 1付）

退職

分析薬科学系薬品物理化学分野 教授 小暮健太郎
 （2015. 12. 31付）

生命薬科学系
 微生物・感染制御学分野 助教 皆川 周
 （2016. 2. 5付）

薬学教育系教育研究総合センター
 臨床薬学教育研究センター 教授 高山 明
 薬学教育系教育研究総合センター
 学生実習支援センター 講師 竹島 繁雄
 共同利用機器センター 講師 織田佳代子
 共同利用機器センター 助教 寺田 俊二
 医療薬科学系薬剤学分野 准教授 坂根 稔康
 生命薬科学系細胞生物学分野 助教 賀川 裕貴
 薬学教育系教育研究総合センター
 薬学教育研究センター 助手 高木 愛未
 事務局 事務局長 村澤 悟
 事務局 事務局長付 安本 義仁
 （特命教員）

薬学教育系教育研究総合センター
 臨床薬学教育研究センター 特命教授 谷口 隆之
 薬学教育系教育研究総合センター
 臨床薬学教育研究センター 特命教授 養内 徳藏
 薬学教育系教育研究総合センター
 臨床薬学教育研究センター 特命教授 稲田 節子
 （特別教員）

医療薬科学系薬剤学分野 助教 草森 浩輔
 病態薬科学系臨床薬理学分野 助手 大東 誠
 （契約教員）

薬学教育系教育研究総合センター
 学生実習支援センター 契約教員 講師 若槻 徹
 放射性同位元素研究センター
 契約教員 講師 村田 保
 （契約職員）

内部監査部門 契約職員 能勢 俊彦
 （以上2016. 3. 31付）

＜2016年度 京薬会代議員総会の開催予定＞

2016年度京薬会代議員総会は5月28日（土）に開催します。当日は午前中に支部長会、そして午後には代議員総会を予定しています。代議員ならびに支部長の皆様はご出席ください。

＜駅伝大会とぜんざい会＞

京都薬科大学の伝統行事、京薬会協賛の「京都薬科大学駅伝大会」が11月28日（土）に開催されました。

今年は晴天に恵まれ、選手たちは午後1時に乾学長の号砲とともにキャンパス中庭を一斉にスタートし、山科疎水へと駆け上がっていきました。約1時間後、応援の学生が大勢待つなか、選手たちが次々とゴールしました。

今年の優勝チームは“やしまーず”（サッカー部）、以下2位“ブレイブバード”、3位“かっちゃんボーイズ”（薬物動態学分野）の順でした。

全員ゴールした後、選手や応援の学生に恒例の京薬会提供のぜんざいが振る舞われ、皆さんに喜んでいただきました。

陸上部の皆さんはこの伝統行事を続けていくために、毎年交通整理や安全確保に尽力していただいています。残念ながら以前に比べ、参加チームが少

なくなっています。

京薬会では、陸上競技部とともにこの伝統ある京都薬科大学駅伝大会を盛り上げていきたいと考えています。

＜ホームカミングデー開催予定＞

本年度のホームカミングデーは第7回となりますが、例年通り京都薬科大学学園祭「京薬祭」の開催に合わせ、開催します。当日は講演会ならびに歓迎パーティーを予定しています。参加者は回を追うごとに増加し、盛大になっていますが、本年は更に充実したホームカミングデーとしたいと考え、企画を練っていますので、一度新しく生まれ変わった母校を訪問し、恩師や卒業生や在学生と交流してみませんか。

この会にあわせてミニ同窓会を開催、同期の仲間と誘い合わせて参加といった光景も増えてきており、このような形でもこの会を利用していただけたらと思います。

参加は無料です。さらに、学生との交流に使用できる1,000円分の模擬店チケットも差し上げますので、お誘いあわせのうえ来学ください。

詳しい日程、内容についてはホームページならびに「京薬会誌」8月号でお知らせします。

京都薬科大学奨学寄附金芳名録

Report

下記の方々からご寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

- * 高額のご寄附（10万円以上）を頂いた方は、京都薬科大学奨学金規則及び学生便覧に掲載させていただきます。
- * 敬称略、芳名のみ掲載しております。

2015年12月～2016年2月にご寄附をお寄せいただいた方々

＜卒業生・同期会等（卒業年次順）＞

石田 成弘(昭17)	渡辺 温(昭43)	清水 薫(昭50)	中森 省吾(昭56)
内田千恵子(昭43)	滝村 芳子(昭46)	伊東 哲子(昭56)	本田 哲郎(平25)

＜京薬四一会卒業50周年記念募金（昭和41年卒業生）（五十音順）＞

井上 キミ	近藤 文博	都濃 義秀	福田 尚久	宮本知左子
大橋 恒重	澤井 正	中村 泰三	藤田 成孝	山下 節子
國貞 眞司	杉岡 誠也	西川 隆雄	増田登美子	
近藤大三郎	高砂子三知代	福井佐智子	宮本 茂敏	

＜法人役員・評議員・職員（五十音順）＞

北出 達也(教授)	鈴木 栄樹(教授)	富永 重夫(主幹)	矢野 義孝(教授)
佐原 和美(係長)	高野 江里(課長)	村澤 悟(局長)	山下 豊彦(課長)

(2016年2月29日現在)



KPUnews No. 185

2016年4月発行／編集：KPUnews編集委員会

発行：京都薬科大学 〒607-8414 京都府京都市山科区御陵中内町5 ☎075-595-4691(企画・広報課)

※本誌掲載の文章及び写真の無断転載を禁じます。